

松田の水道

「松田の水はおいしい」と、町外から来た人々は一樣に口をそろえて言います。丹沢山塊の緑と水脈が日々、松田町の住民の命と生活を守ってきました。大正13年10月、川崎市に続き県内4番目の町営の水道(上水道)が設けられ、給水が始まってから88年。日夜、安心して安全な水を安定供給していますが、予想される大規模地震や施設の老朽化、少子化に伴う人口の減少など、新たな対策、ビジョンづくりも課題になってきました。

地下水・湧き水で賄い88年

◆大震災をきっかけに開設
町役場の玄関脇、町民憲章の大きな石碑の傍らに「延命之泉」がある

のをご存じでしょうか。現在は沢の水で飲用には適しませんが、大正12年9月の関東大震災で、飲み水に苦しんだ町民は、延命寺沢の湧き水で

1年余、命をつないだときれ、町営水道開設のきっかけとなりました。



関東大震災の教訓をいつまでも忘れないよう復元された「延命之泉」(現在は沢の水で飲用できません)
= 役場敷地内

豊かでおいしい水を伝え続けて

◆安くておいしい水を

水道水は、給水人口により上水道と簡易水道に分けられます。上水道は神山、松田惣領、松田庶子地区で宮下と中河原の2カ所に井戸(水源)があり、水を供給しています。

取水ポンプでくみ上げられた水を塩素滅菌消毒をして受水槽にいったん貯水、送水ポンプで配水池まで送水し、そこから自然流下で家庭などに配水されます。

簡易水道は平成14年度に統合整備が完了し、現在は稲郷、宇津茂、弥勒寺、宮地田代の各水源から供給しています。

それぞれの水系の配水池が被災などで使えなくなっても、使える配水池から多くの家庭に供給できるように配水管をネットワーク化しています。

このように地下水を原水としているので、ダムや浄水場を必要としない分、県東部の水道よりも安価で提供することができます。

◆安心して飲める水を供給

水質については、水質検査計画に基づいて毎月実施し、日々の水質の安全確認も行っています。

昨年3月11日の東日本大震災で福島第1原発が被災、関東までもが放射性物質に見舞われました。「命の水」を守るため、町では直後から水道水の検査(放射性物質検査は県広域水道企業団の水質管理センターに依頼)を始めています。セシウム134と137やヨウ素131については毎回不検出となり、安全な水を維持しています。この結果は、町のホームページで公開しています。

また、町内では河南沢配水池(2千立方貯)、神山配水池(同)、庶子配水池(2百立方貯)の3カ所に緊

急遮断弁が設置されており、震度4(1.50ガル)以上の地震があった場合、遮断弁が自動的に閉じて配水池の水が流出しないようにすることにより、配水管などの損傷による漏水を防ぎ、配水池には飲料水が確保されます。

◆水づくりへの新たな課題

少子化に伴う給水人口の減少や水需要の低下により、平成22年度は松田地区の1人当たりの1日最大給水量が502リとなり、前年度より2割近く減少しました。これに伴い、給水収益が減少する一方で、施設の老朽化や耐震対策など、課題も避けては通れません。

平成16年6月に厚生労働省が「水道ビジョン」を策定しました。水道事業者(地方自治体など)が国や県、民間事業者と利用者などが共通の目標を持って連携していく方向性を示すためのもので、水道施策の重点的な取り組みも示されました。

これを受けて、松田町でも24年度事業として「松田町水道ビジョン」策定の取り組みを始めました。安心して安全な水道水を安定供給していく、計画的な水づくりを推進していきます。

【問い合わせ】 建設課上下水道係

いつまでも子や孫にも、松田のおいしく豊かで安全な水が飲めるように...第一幼稚園



主に松田惣領地区を配水エリアとする河南沢配水池